



ONE WORLD Info

英語教育 通信

特集：CAN-DOリスト

「CAN-DOリスト」の作成によって期待される英語教育のマクロ的改善 … 松本 茂
千代田区立九段中等教育学校におけるCAN-DOリスト作成の取り組み … 本多 敏幸
CAN-DOは学ぶ意欲を喚起する … 越野 崇

小学校外国語活動

つなぎを意識した9年間の英語教育～施設一体型小中一貫教育校の特色を生かして～ … 新垣 みゆき
連載

とっておきの英語5 I-am-counting-on-you … 野田 小枝子
今ドキ英語事情 It's a generational thing … Peter J. Collins

「CAN-DOリスト」の作成によって期待される 英語教育のマクロ的改善

ONE WORLD English Course 代表著者

文部科学省「外国語教育における『CAN-DO リスト』の形での学習到達目標設定に関する検討会議」委員 松本 茂

●CAN-DOリスト作成の必要性

2011年（平成23年）6月に「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」（通称「5提言」）を取りまとめた「外国語能力の向上に関する検討会」の席上、私は、国や県が各中学・高校に「CAN-DOリスト」を作成するように強く働きかけるべきである、と何度となく主張した。

それまでの中学・高校では、各学年終了あるいは卒業の時点において想定される学習成果（Learning Outcomes）を明確に設定せず、それぞれの教員が永年の経験と勘に従って、授業を設計してきた。

共通のゴール（生徒が英語で何ができるようになるのか）を設定して提示していないので、生徒は何を目指して勉強しているのかが分からず、先生から言われる宿題をこなし、試験に備える、ということの繰り返し。これでは自律した学習者が育たないだけでなく、生徒は何のために英語を勉強しているのかが分からなくなってしまふ。

教師の間でゴールが共有されていないから、英語科の中で指導法はもちろんのこと、ワークシートなども共有されない。よい授業をしている教師が異動してしまえば、指導法も一緒に移動してしまう。一方、新たに異動してきた教師は、前任校の経験にもとづいて授業を展開する。

よって、〇〇中学校（△△高校）の英語教育ではなく、□□先生の英語教育ということになり、継続性は期待できない。生徒や保護者たちは、「今年の英語は□□先生だからアタリ（ハズレ）ね」と陰でつぶやいている。

公開授業についても、参観者は「生徒が生き生きとしていた」「よく声が出ていた」といった「印象論」に終始してしまいがちだ。設定されたCAN-DOリストに照らし、現時

点の授業がゴールを達成するのに効果的かどうか、といったマクロ的な発想で授業をチェックすることがほとんどない。

また、その人にしかできない職人的授業を展開する「達人」の教員ばかりが脚光を浴び、英語教育の改善に本当に必要な「チームを形成し、他の教師を引っ張るリーダーシップを発揮できる教員」には光が当たらない。

こういったことが不思議でならなかった。年間、学期のゴールを定め、指導法を標準化しなければ、日本の英語教育の底上げは無理だと私はつねづね感じていた。こういう状況に鑑み、中学校版ONE WORLDでは、以前からCAN-DOリストをUnitごとに明示してきた。

●動き出したCAN-DOリストの作成

実は、『中学校学習指導要領』には、次のように明記されている。

3 指導計画の作成と内容の取扱い

指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

ア 各学校においては、生徒や地域の実態に応じて、学年ごとの目標を適切に定め、3学年間を通して英語の目標の実現を図るようにすること。

この記述を忠実に受け入れ、実際に到達目標を設定した中学校が全国にどれだけあるだろうか…。

2012年度に、文部科学省は「外国語教育における『CAN-DOリスト』の形での学習到達目標設定に関する検討会議」（通称「CAN-DO会議」）を発足させ、議論を重ねた。その結果、年度の最後に『「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』を発行し、文科省HPに掲載するに至った。「CAN-

DOリストって、何？」という方は、まずはこの手引書を読むことを強くお勧めする。

岩手県のように英語教育改善に関する先進的な取り組みを行っている県では、この「手引書」の発行を待たずに、県内すべての高校にCAN-DOリストの作成を促し、現在では実際に活用が始まっている。その他の県でも、同じく2012年度に始まった「英語教育強化推進事業」（通称・拠点校事業）において教育委員会から指定された「拠点校」がリストを作成した。2013年度は全国すべての公立高校がリストを作成することが求められる。

●CAN-DOリストの作成には地域連携が必須

接続が必ずしもうまくいっていない中高一貫校が少なくない。ましてや、同一地域にある中学と高校の接続は絶望的だ。互いの授業参観を定期的に行っていない地域もある。

各地域で6年間の英語教育でどのような力を子どもたちにつけてもらうのか、といった方針や展望がないまま、教員がばらばらに指導していても、成果は知れている。

また、中学の教科書は単語数と授業時間数は増えたものの、英文量が多いと指導しにくいといった「現場の意見」を取り入れた結果、総語数が少ない。そのため、中学校の教科書の最終レッスンの英文量と高校でもっとも多く採用されている教科書の最初のレッスンの英文量には大きなギャップがある。

高校入学時に保持していることが期待される英語力を中学生が身につけるには、高校と中学の教師がよく話し合ったうえで、CAN-DOリストを設定し、それらのゴールを達成するために必要な指導計画を相当綿密に立てなければならない。

文部科学省の見解に従えば、CAN-DOリストは「すべての生徒が達成する」ことを前提に策定しなければならない。

中学における生徒間の英語の習熟度に関する差は拡大傾向にある。現在、首都圏を中心に英検3級に合格する小学生が急増している。一方で、bとdの区別がつかないまま中

学を卒業している生徒もいる。

しかし、「教育」の名のもと、中学での習熟度別編成は進んでいない。そのため、「最低保証」としてCAN-DOリストを活用するとなると、英語ができる生徒が「ふきこぼれ」てしまう危険性がある。

こういった英語力の高い生徒にも対応でき、かつ地域の中学と高校の英語教育の接続を円滑にするためにも、市内すべての中学と高校の先生たちが集まり、6年間のCAN-DOリストを作成することが望まれる。

そして、その中で、中学および高校卒業時点での最低基準を設定しておけば、英語力が特段に高い生徒は、次に何を目標せばよいか分かるし、そういった生徒にどのような指導をすればよいかを教師も把握できる。

●CAN-DOリストと評価

CAN-DOリストは、授業の設計・遂行・検証・改善といった「PDCAサイクル」の核となる。このサイクルを回すためには、リストに記載した能力記述である「～ができる」が実際にできるようになったのかを授業における机間巡視、小テスト、筆記試験、作文提出、パフォーマンス評価など、多角的な評価の枠組みを介して検証しなければならない。

例えば、「自分の将来の夢についてのスピーチができる」というのがCAN-DO項目のひとつであれば、実際にスピーチをしてもらったうえで評価する必要があるのは当然だ。

評点（5～1）は、これまで通り観点別評価が軸になるものの、評価の対象や方法が今まで通りでよいのかといったことを、リストを作成しながら同時に検討することが肝要である。

生徒もリストを照らして随時自己チェックをし、どこまで達成できていて、今特に何をすべきか、といった計画を自分で立てて活用できるようにしておかなければ意味がない。

また、地域の方々にも理解してもらう必要から、各校のHPにも全文を掲載していただきたい。

千代田区立九段中等教育学校における CAN-DOリスト作成の取り組み

東京都千代田区立九段中等教育学校 本多 敏幸

筆者の勤務校である千代田区立九段中等教育学校は平成18年4月に創立された中・高一貫校であるが、平成17年度の開校準備段階からCAN-DOリストの作成をめざしていた。しかし、CAN-DOリストを実際に生徒に配付できたのは平成22年度になってからである。この間、完成させようとしては挫折するという繰り返しであった。初期のCAN-DOリストは、個々の教員が心に描いている「生徒に身につけてほしい力」を羅列したものであった。教員それぞれの思いが詰まったリストではあったが、バラバラな感じを受け、公開するまでの質には至らなかった。

平成22年度になり、今年度こそ絶対にCAN-DOリストを完成させようということになり、9月に試案を完成させた。ところが、これは翌月に破棄することとなった。10月に訪問した福岡県立香住丘高等学校のCAN-DOリストを見せていただき、本校のものともあまりにも質が違っていただけである。香住丘高等学校のリストを参考にし、根本から作り直さなければならなかったと感じた。翌月、現在のKUDAN CAN-DOリストのもととなるリストを完成させ、根岸雅史先生（東京外国語大学教授）に助言をお願いした。いくつか助言をいただいた中で、CAN-DOリストに載せる個々の能力記述文も大切であるが、九段中等教育学校における英語指導の最終目標が大もとにあり、それに向けてのCAN-DOリストであるべきという指摘を受けた。まったくその通りであると感じた。すぐに英語科で卒業時までには生徒に身につけさせたい力を話し合い、学習指導要領の「外国語科の目標」をもとに、本校の特色を加味し、以下のように決めた。

- ① 4技能の力をバランスよく身につけ、英語を使ってさまざまなコミュニケーションをとることができる。
- ② 大学入試でどの生徒も進路実現が可能な学力を身につけている。
- ③ 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけている。
- ④ 興味をもっていることや勉強を深めたい分野について英語を媒介として独学することができる。

平成22年度版のKUDAN CAN-DOリストでは、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの技能別にそれぞれ5つの観点を設け、学年ごとに学習到達目標を作成した。たとえば、話すことでは、次の観点を定めた。

観点1：授業で設定される話すことの活動に関すること

観点2：スピーチや暗唱などの発表に関すること

観点3：会話に関すること

観点4：本校の行事やKudan Methodに関すること

観点5：テストに関連すること

これら5つの観点の中で、「テストに関連すること」は4つのどの技能にも共通に設けたが、CAN-DOリストに載せるべき能力記述文とは性質が異なるので、平成23年度版以降はこの観点を設けないことにした。また、外部テストの級やスコアをリストに載せるのには賛否両論あるが、生徒が受検している英検やGTEC for STUDENTSの数値目標を併記するほうが、生徒がリストを見たときに各自で具体的な目標を設定できるだろうということになった。平成23年度版では、技能別にそれぞれ4つの観点を設けた。4つのうちの2

つは共通の観点、あとの2つは各技能特有のものとした。共通の観点とは、「実生活に関わること」と「本校独自の行事や授業（Kudan Method）に関すること」である。Kudan Methodとは、学校全体のさまざまな取り組みで構成されているが、英語科では、英語合宿やオーストラリア研修旅行などの行事、English Activity（英語母語話者による授業）やイングリッシュ・シャワー（朝学習20分間の外国人留学生による英語での活動）などが挙げられる。各校で作成するCAN-DOリストには、学校や地域の特色を盛り込むとリストの独自性が出てくるはずである。

KUDAN CAN-DOリストの中には、「本校で使用する高校の教科書レベルの文章であれば、初見であっても相手に意味が伝わるように音読できる」や「英検3級レベルの文章を、70wpm以上のスピードで読み概要を理解することができる」といった基礎技能も示している。こうした音読や黙読スピードに関することは、CAN-DOリストに載せるべき能力記述文としては違和感があるかもしれない。しかし、これらの活動は教室内で頻繁に行うものであり、生徒にとって目標にしやすい基礎技能であると考え、リストに含めている。

平成22年度に作成したKUDAN CAN-DOリスト（試案）の各学習到達目標が本校の生徒に適しているかを検証するために、平成22年度末には自分の学年の学習到達目標の達成度を5段階で自己評価させた。なお、学習到達目標の中には実際にやってみなければどのくらいできるのか評価できないものもあるので、いくつかの活動を実際に生徒に行わせてみた。平成23年度末には、6年生（高校3年生）を除く全生徒に、リストに載っている96すべての学習到達目標の達成度を4段階で自己評価させた。これらの調査結果により、若干の文言の修正を行ったが、難易度については概ね適切であることが分かった。

現在、各校で作成されたCAN-DOリストがインターネット上に多数公開されているので、それらやCEFR-Jなどを参考にすれば、CAN-DOリストの形にすること自体はそれほど難しい作業ではないだろう。しかし、各学習到達目標を達成させるためには教員間の協力とアイデアの共有が不可欠である。本校では、教員集団としての指導力を上げ、質の高い授業を生徒に保証するために、英語科のすべての授業で共通指導案を作成し、共通の教材と指導手順で授業を行っている。また、英語科の自主研修会を年間10回程度行い、各自が実践した指導方法について相互に紹介し合い、意見交換をしている。さらに、各自が作成した教材や指導案をコンピューターの共有フォルダーに保存し、過年度のものを改良して使えるようにしている。平成22年度には、教えるためのガイドラインを話し合い、学年間で異なる教え方にならないようにした。たとえば、次のことが共通に認識できた。

- ・検定教科書を使った指導を大切にする。文法だけ、ある特定の技能の活動だけのような偏った指導にならないようにする。
- ・後期課程では未習の文章を初見で読ませる活動を取り入れる。文法訳読式は行わず、指導方法を英語科全員で工夫する。
- ・復習に重点をおく。予習では、日本語訳を毎回行わせるなどの課題は避ける。

今後の課題として、KUDAN CAN-DOリストの学習到達目標を生徒にとって分かりやすい文言に修正すること、各学習到達目標を達成するための指導方法や教材についてまとめていくこと、評価方法についての研究を行うこと、などが挙げられる。なお、平成24年度のKUDAN CAN-DOリスト（2012-2013版）を次ページに掲載しているが、本校のホームページでは関連の説明もご覧いただけるので、参照していただきたい。

KUDAN CAN-DO リスト ver. 7 (2012-2013)

KUDAN CAN-DO	学年 (段階) 項目	第1学年 (学年末)	第2学年 (学年末)	第3学年
		G1	G2	G3
Reading 読むこと	実生活に関わること	[R1-1] 公共の施設などにある簡単な表示や掲示を見て、その意味が理解できる。	[R1-2] Eメール等の短いメッセージを、辞書を使いながら読み理解できる。	[R1-3] 海外の学校に 意事項やお知らせを
	本校独自の行事や授業 (Kudan Method) に 関すること	[R2-1] 多読用図書 (本校設定の赤レ ベル) を、辞書を使わないで、楽しみ ながら読むことができる。	[R2-2] 英語合宿で使用される教材を読 んで、指示文や概要が理解できる。	[R2-3] オーストラ リられるテキストを、 することができる。
	黙読スピードと概略理 解に関すること	[R3-1] 英検 4 級レベルの文章を、 60wpm 以上のスピードで読み概要を理 解することができる。	[R3-2] 英検 3 級レベルの文章を、 70wpm 以上のスピードで読み概要を理 解することができる。	[R3-3] 都立高校の入 度) を、80wpm 以上 概要を理解すること
	音読に関すること	[R4-1] 中学 1 年生の既習の教科書本文 を、英語特有の音を正しく発音しな がら音読できる。	[R4-2] 中学 2 年生の既習の教科書本文 を、正しい発音で滑らかに音読できる。	[R4-3] 中学 3 年生 の、その内容に合わ 音読できる。
Listening 聞くこと	実生活に関わること	[L1-1] 簡単な指示を聞いて、適切に応 じることができる。	[L1-2] ゆっくり話してもらえば、簡単 な道案内を聞いて理解することができる。	[L1-3] 学校などの施 簡単なアナウンスを とができる。
	本校独自の行事や授業 (Kudan Method) に 関すること	[L2-1] English Shower で、講師の先生 による簡単な自己紹介を聞いて、概ね 理解することができる。	[L2-2] 英語合宿で、ゆっくり話してもら えば、講師の先生の英語を理解する ことができる。	[L2-3] オーストラ リストファミリーが自 容を概ね理解するこ
	一方的な発話の聞き取 り	[L3-1] 人やものについての簡単な説明 を聞いて理解することができる。	[L3-2] 教師による教科書の内容や活動 のやり方などの説明を聞いて理解する ことができる。	[L3-3] 英検 3 級レ ベルのやり方などの 内容が理解できる。
	会話における聞き取り や技術に関すること	[L4-1] ごく身近な話題の会話において、 相手の言うことを理解し、相づちなど の反応をすることができる。	[L4-2] 身近な話題の会話において、相 手の言うことを理解し、さまざまな相 づちを打つことができる。	[L4-3] 相手の話す内 容を相づちを打ったり、 を聞き返したりする
Speaking 話すこと	実生活に関わること	[S1-1] 食べ物やスポーツなどの好き嫌 いについて述べるができる。	[S1-2] 物事の好き嫌いとその理由を簡 単に述べるができる。	[S1-3] 電話で、簡単 句を使って適切に応 る。
	本校独自の行事や授業 (Kudan Method) に 関すること	[S2-1] English Shower など、初対面 の相手にあいさつや簡単な自己紹介を 即興でできる。	[S2-2] English Shower や英語合宿など で、簡単な質問に適切に答えることが できる。	[S2-3] オーストラ リ本や学校、家族など ことを相手に伝える
	準備をして行う発話 (発表活動)	[S3-1] 人物や事物についての 50 語程 度のスピーチを行うことができる。	[S3-2] 習ったばかりの教科書の内容を 自分の言葉で伝えることができる。【リ プロダクション】	[S3-3] 商品やアラン クを説明するプレゼン る。
	即興で行う発話 (会話 など)	[S4-1] チャットを友だちと協力しな がら 1 分以上続けることができる。	[S4-2] チャットを友だちと協力しな がら 2 分以上続けることができる。	[S4-3] 自分の得た簡 単しないで、他の人 にとができる。
Writing 書くこと	実生活に関わること	[W1-1] 入国カードなどに、日付、自分 の名前、国籍、生年月日などを書くこ とができる。	[W1-2] 自分の予定を手帳やカレンダー などにメモ書きすることができる。	[W1-3] 感謝や謝罪を ルや手紙を書くこと
	本校独自の行事や授業 (Kudan Method) に 関すること	[W2-1] 自己紹介の掲示用ポスターを 書くことができる。	[W2-2] 長期休業中に自分のしたことを 英語新聞などの形式で読みやすく書 くことができる。	[W2-3] 辞書を使え りて伝えたいこと に書くことができる。
	意見、要約、感想など の筆記に関すること	[W3-1] 見本を参考にして、簡単な絵は がきやカードを書くことができる。	[W3-2] イラストや写真の簡単な説明文 を書くことができる。	[W3-3] 簡単な内容 で習ったレッスンの ができる。
	口頭発表するための原 稿に関すること	[W4-1] 5 ターン程度の創作スキットを 他の生徒と協力して書くことができる。	[W4-2] 12 文 (80 語) 程度のスピーチ 文を聞き手に分かりやすく書くことが できる。	[W4-3] 自分の好き なテンション用の原 しやす構成で書く

外部の検定試験における目標

Reading	GTEC for STUDENTS (リーディング) の目標スコア	80 点以上を取ることができる。 【グレード 1】	105 点以上取ることができる。 【グレード 1】	140 点以上取ること 【グレード 3】
Listening	GTEC for STUDENTS (リスニング) の目標スコア	115 点以上取ることができる。 【グレード 1】	140 点以上取ることができる。 【グレード 2】	165 点以上取ること 【グレード 3】
Speaking	英検の面接テストの 目標スコア	英検 3 級の面接テストの No. 2 から No. 5 を行い、40% 以上の得点を取 ることができる。	英検 3 級の面接テストの No. 2 から No. 5 を行い、70% 以上の得点を取 ることができる。	英検準 2 級の面接テ スト No. 5 を行い、60% 以上を取ることができる。
Writing	GTEC for STUDENTS (ライティング) の目標スコア	80 点以上取ることができる。 【グレード 3】	90 点以上取ることができる。 【グレード 3】	100 点以上取ること 【グレード 4】
総合的な英語力 検定試験の目標	英 検	5 級～4 級	4 級～3 級	3 級～
	GTEC for STUDENTS	275 【グレード 1】	335 【グレード 2】	405 【グ

(学年末)	第4学年 (学年末)	第5学年 (学年末)	第6学年 (卒業時)
	G4	G5	G6
掲示されている注 読み理解できる。	[R1-4] チラシやパンフレットを読んで、 値段や特徴などの必要な情報を探して、 その内容を理解することができる。	[R1-5] 学習者用に書かれた英字新聞の興 味のある記事を、辞書を多用しないで読 み理解できる。	[R1-6] 英字新聞の興味のある記事を、辞 書を多用しないで読み理解できる。
ア研修旅行で用い 辞書を使えば理解	[R2-4] 副読本（ペンギンブック・レベル 2程度）を、辞書を使わないで、楽しみ ながら読むことができる。	[R2-5] 副読本（ペンギンブック・レベル 3程度）を、辞書を使わないで、楽しみ ながら読むことができる。	[R2-6] 副読本（ペンギンブック・レベル 4程度）を、辞書を使わないで、楽しみ ながら読むことができる。
試問題（600 語程 のスピードで読み ができる。	[R3-4] 英検 2 級のレベルの文章を、 90wpm 以上のスピードで読み概要を理 解することができる。	[R3-5] センター入試レベルの問題を、 110wpm 以上のスピードで読み概要を 理解することができる。	[R3-6] センター入試レベルの問題を、 130wpm 以上のスピードで読み概要を 理解することができる。
既習の教科書本文 せて感情を込めて	[R4-4] コミュニケーション英語Ⅰの既習の 教科書本文を、意味のまともに注意し、 相手が理解しやすいように音読できる。	[R4-5] 英語Ⅱの既習の教科書本文を、意 味のまともに注意し、ナレーターを演 じるように音読できる。	[R4-6] 本校で使用する高校の教科書レベ ルの文章であれば、初見であっても相手 に意味が伝わるように音読できる。
設や乗り物などで、 聞いて理解するこ	[L1-4] 買い物で店員からの簡単な商品説 明を聞いて理解することができる。	[L1-5] 簡単な内容であれば、英語で行わ れる学校外の授業や研修を理解するこ とができる。	[L1-6] 身近な話題についての映画やテレ ビ番組を見て、画面の情報を助けとしな がら、その概要を理解することができる。
ア研修旅行で、ホ 分に向けて話す内 とができる。	[L2-4] 学習発表会において、どの学年の 生徒の話す英語も聞き取ることができる。	[L2-5] ディスカッションやディベートな どで、自分の次の発言内容を考えながら 聞くことができる。	[L2-6] English Shower や英語による講演 を聞いて、話されていることが理解でき る。
ルの長文問題を、 スピードで聞き、	[L3-4] 英検準 2 級レベルの長文問題を、 少しゆっくりとしたスピードで聞き、内 容が理解できる。	[L3-5] 英検 2 級の長文問題を、少しゆっ くりとしたスピードで聞き、内容が理解 できる。	[L3-6] 本校で使用する英語Ⅰレベルの教 科書の CD を、自然な音調で聞き、内容 が理解できる。
容に応じて適切な 分らないところ とができる。	[L4-4] 英語で聞いたり話したりしたこと ある話題ならば、相手の言うことを理解し、 必要なときに内容を確認することができる。	[L4-5] 身近な話題であれば、相手の言う ことを理解し、必要なときに内容を確認 することができる。	[L4-6] 自分の知らないことを言われて も、適切に対処しながら会話を続けるこ とができる。
な表現や決まり文 答することができる	[S1-4] 電話で、会う時間や場所などの交 渉をすることができる。	[S1-5] 旅行やイベントなど印象に残った 出来事について、相手に分かりやすく詳 細に話すことができる。	[S1-6] 店、レストラン、公共の施設など で、問題点など自分の用件を伝え、交渉 をして解決することができる。
ア研修旅行で、日 に関する基本的な とができる。	[S2-4] 即興で、自分の意見を相手に理解 してもらえるように発言することができる。	[S2-5] ディベートにおいて、論題に対し て 200 語程度の立論スピーチをすること ができる。	[S2-6] 社会的な問題について、ディス カッションやディベートができる。
ート調査結果など テーションができ	[S3-4] 教科書のレッスンや短い物語の概 要と感想を述べるすることができる。	[S3-5] 図表や写真などを有効に利用し、 分かりやすいプレゼンテーションをする ことができる。	[S3-6] 5 分程度のスピーチを、分かりや すい構成で、聞き手を惹きつけながら行 うことができる。
単な情報を、準備 誤解なく伝えるこ	[S4-4] 会話において、身近な話題であ れば、相手の反応に合わせて補足説明をし ながら、話を続けることができる。	[S4-5] 読んだ本や見た映画についての 内容や感想を、簡潔に述べるができる。	[S4-6] 自分が発表したことに相手から質 問された際、相手のもっている情報量に 合わせて説明することができる。
表した簡単なメ ができる。	[W1-4] 経験、感情や出来事を詳しく記 した個人的なメールや手紙を書くことが できる。	[W1-5] 相手を説得するためのメールや 手紙を書くことができる。	[W1-6] 新聞や雑誌などに自分の意見を 投稿できる。
ば、ホストファミ を E メールや手紙	[W2-4] 社会の出来事や自分が興味を 持っていることを、英語新聞などにまと めることができる。	[W2-5] 自分が読んだ本のあらすじを、 読み手に分かりやすく書くことができる。	[W2-6] 興味のあることを小論文にまと めたり、物語文を創作して書くことが できる。
あれば、教科書 要約文を書くこと	[W3-4] 自分の経験したことを、そのと きの気持ちを含めて、読み手に伝わるよ うに書くことができる。	[W3-5] 語数の多い文章を読んで、その 内容を知らない読み手に分かる要約文を 書くことができる。	[W3-6] 日本の文化などについて、他国 と比較しながら説明する文章を書くこ とができる。
テーマのプレゼ 稿を聞き手が理解 ことができる。	[W4-4] 教科書で習ったさまざまな分野 について、その要点と感想を述べるため のスピーチ原稿を書くことができる。	[W4-5] 3 部構成（序論、本論、結論） で説得力のある 300 語程度のスピーチ 原稿を書くことができる。	[W4-6] 500 語程度のスピーチ原稿を聞 き手を惹き付けられるような工夫をして 書くことができる。
ができる。	160 点以上取ることができる。 【グレード 4】	190 点以上取ることができる。 【グレード 5】	215 点以上取ることができる。 【グレード 5】
ができる。	190 点以上取ることができる。 【グレード 4】	210 点以上取ることができる。 【グレード 5】	220 点以上取ることができる。 【グレード 6】
ストの No. 2 から 以上の得点を取る	英検 2 級の面接テストの No. 2 から No. 4 を行い、60% 以上の得点を取ること ができる。	英検準 1 級の面接テストのナレーション および No. 1 から No. 4 を行い、50% 以上の得点を取ることができる。	英検準 1 級の面接テストのナレーション および No. 1 から No. 4 を行い、70% 以上の得点を取ることができる。
ができる。	115 点以上取ることができる。 【グレード 4】	125 点以上取ることができる。 【グレード 5】	130 点以上取ることができる。 【グレード 5】
準 2 級	準 2 級	準 2 級～2 級	2 級～準 1 級
リード 3】	465 【グレード 4】	525 【グレード 5】	565 【グレード 5】

CAN-DOは学ぶ意欲を喚起する

北海道教育大学附属旭川中学校 越野 崇

●適切な「見通し」と「振り返り」

本校の英語科では、研究主題を「表現の質を高め、主体的に考えや気持ちを発信することができる力の育成」とし、実践研究に取り組んでいる。こうした資質能力を生徒に身に付けさせる1つの手立てとして、単元やレッスンのはじめに、まとめとして行う課題とその目指す姿及び評価の基準をCAN-DO形式の到達目標として具体的に示している。ONE WORLD English Courseでは、Unit内の各Lessonで習得すべき到達目標がUnitの冒頭で明示されていることから、その目標と合わせて確認し、生徒の学びの動機付けや学んだことを活用する具体的な見通しをもたせている。また、課題の終了後には、先に示したCAN-DO形式の到達目標と自己の結果を比較させている。そうすることで、生徒は現在の学習の進捗を自覚でき、自分のできようになったことと今後の課題を明らかにし、次の学習につなげている。このように本校では、CAN-DO形式の到達目標を用いることで、生徒一人ひとりに学びに対する適切な「見通し」と「振り返り」を促している。

●書くことに関するCAN-DO形式の到達目標

次に、実際に授業で使用したCAN-DO形式の到達目標を紹介する。これらを作成するに当たっては、①学習指導要領の解説、②国立教育政策研究所から出ている「評価基準の作成のための参考資料」、③実用英語技能検定のCAN-DOリスト、④GTEC for STUDENTSの推奨スコアガイドライン、そして⑤CEFR-J（Common European Framework of Reference for Languagesの日本語版）を参考にした。その理由として

は、①と②は生徒に身に付けさせるべき資質能力にズレがないかを確認するため、③～⑤は、評価の基準のレベルを質的に均一に保つためである。

以下に示す課題とその到達目標（＝目指す姿）及び評価の基準（書くこと）は、ONE WORLD English Course 3のUnit 1とUnit 2で使用した中の3つである。

課題	2年生に修学旅行「私のおすすめスポット」を紹介しよう
目指す姿	後輩の2年生に、修学旅行のおすすめの場所などを紹介する文を書くことができる。
評価の基準（書くこと）	☐ おすすめの場所について、10分間に、25語程度で書くことができる。 ☐ 受け身の文を用いて場所の説明を書くことができる。 ☐ call OCやmake OCの文を取り入れて書くことができる。 ☐ 文章構成を意識して、自分の経験したことや感想、意見などを取り入れながら、つながりのある文章を書くことができる。

課題	Let's Make a Fuchu Commercial for New Students!
目指す姿	附属中学校のよさを次年度の新入生に伝えるために、附中コマーシャルの原稿を作り、ビデオに収録することができる。
評価の基準（書くこと）	☐ 附中のよさを伝える原稿について、15分間に、60語程度で書くことができる。

評価の基準（書くこと）	☐ 接触節や関係代名詞who, which（主格）の文構造を取り入れて書くことができる。
	☐ 3年生になってから学習した文構造を取り入れて書くことができる。
	☐ 段落構成を意識して、学校の行事などについて、自分の経験したことや意見、思いなどを取り入れた、つながりのある文章を書くことができる。

課題	Endangered Species in Asahiya Zoo
目指す姿	旭山動物園にいる絶滅危惧種について説明する文章を書き、動物園を訪れている外国の方（クラスメイト）に調べた動物を説明し、その動物についての会話を継続することができる。
評価の基準（書くこと）	☐ 旭山動物園にいる絶滅危惧種について、15分間に、80語程度で書くことができる。 ☐ 3年生になってから学習した文構造を取り入れて書くことができる。 ☐ 段落構成を意識して、旭山動物園にいる絶滅危惧種について、その特徴や数の減少の理由、自分の考えや思いなどを取り入れた、つながりのある文章を書くことができる。

●学ぶ意欲を喚起する

学んだことを生かす課題とその目指す姿及び評価の基準をあらかじめ生徒と確認し、それを互いに意識しながら授業を進めることで、まとめの課題の達成率が毎回100%近くになる。その要因を探るべくアンケートを実施したところ、次のような回答を得ることができた。その主要なものをご紹介します。

- ・最後に解決すべき課題が見えていると、普段の授業において「これは、最後に使えそうだな」とイメージがしやすかったから。

・評価の基準をクリアし、さらに上を目指そうという気持ちだったから。

・目指す姿があると自然に達成したいという気持ち生まれるので、結果として全体的にレベルの高いものになるから。

このようにCAN-DO形式の到達目標を早い段階で提示することで、生徒は見通しをもって意欲的に学習に取り組むとともに、課題解決を確実に成し遂げる可能性を大いに高めることができる。

●CAN-DO形式の到達目標の効用

CAN-DO形式の到達目標をあらかじめ生徒に示し共有することの効用を、次のように考える。

生徒にとっては、

1. 課題を達成した自分の姿を具体的に描き、目標を具体的に立てることができる。
2. 現在の自分のレベルを知ることができる。
3. 課題の達成状況から、自分の能力を客観的に自己評価することができる。

教師にとっては、

1. CAN-DO形式の到達目標を設定することで、レッスンや単元全体の指導に対する具体的なイメージを描くことができる。
2. まとめ課題を達成させるために、課題解決に向かわせる1時間1時間の授業を明確な意図をもって進められる。このことから、指導と評価の一体化を容易にすることができる。
3. 課題終了後は生徒の課題の到達状況を分析的にとらえることが可能となり、学習指導要領の内容を踏まえた指導方法や評価方法の工夫や改善が容易にできる。

以上のようなことから、CAN-DO形式の到達目標を作成し、それを生徒と共有して授業を行うことのメリットは大きく、「先生！ ○○ができるようになったよ。」と、生徒の満面の笑顔に出会える機会がどんどん増えていくだろう。

つなぎを意識した9年間の英語教育

～施設一体型小中一貫教育校の特色を生かして～

沖縄県名護市立小中一貫教育校 りやくふう 緑風学園 (久志小学校・久志中学校) あらみゆき 新垣みゆき

はじめに

緑風学園は、久志小学校、久志中学校が統合し、昨年4月に沖縄県初となる施設一体型小中一貫教育校として開校した。

開校に向けては小中一貫教育校市民懇話会の提言を受け、特色ある教育課程として9年間の系統的・継続的な学びを通した「基礎・基本の定着」「ふるさと学習」「英語教育」の3つの柱を打ち出した。

英語教育については、教育課程特例校制度の指定を受け、小学1年生から9年間の系統性を重視した英語教育の展開を目指し、開校当初より全職員協力のもと、学習環境の充実（指導体制の充実、環境整備の充実、指導の充実、地域・保護者の理解）に取り組んでいる。

本校は施設一体型の小中一貫教育校の利点を生かし、さまざまな取り組みを実践している。まだスタートしたばかりで、試行錯誤の段階ではあるが、現在実践している取り組みを紹介したい。

1 指導体制の充実（多様な指導体制）

本校では英語指導員のALT（外国人指導助手）とJTE（日本人英語指導助手）が常勤として配置されている。また中学校英語教員も加わり、3名で小学校の英語教育に従事できる多様な指導体制をとっている。

昨年度から必修となった小学5年生からの「外国語活動」に不安を感じる教師が多い中、小学1年生からの英語学習ともなると、全職員が初めての経験となり不安はかなり大きい。そこで本校では、少しでも苦手意識を克服し英語の指導に慣れてもらうために、1学期は1年生から4年生の英語の授業を元小学校英語活動アドバイザーであるJTEの主導で、担任やALTとのチーム・ティーチングを行った。そのおかげで、学級担任の指導力が向上し、2

学期以降は学級担任主導の授業が展開されている。また教材教具の研究や準備、授業計画などにおいても、JTEが主となり作成している。またこれまでの取り組みを通して、指導力のみならず、教師自身の英語教育に対する意識が向上し、日頃から積極的に英語を使おうとする場面が多く見られるようになった。

5、6年生の英語活動については中学校英語学習への円滑な接続を意識し、中学校英語教員が中心となり、ALT、学級担任の3人で指導にあたっている。特に授業の導入部分では中学校の授業同様に「ショート・チャット」（英語でのクイズ・タイム）を実施し、「聞くこと」「話すこと」を重視した活動を取り入れ習慣化している。さらに7年生（中学1年生）の英語の授業においては、中学校英語教員、ALT、JTEの3人体制で指導にあたり、中学校英語のつまづきを解消するための支援を行っている。

2 環境整備の充実（英語に親しむ環境）

（1）表示物の充実

自然に英語の文字に触れ、表示物を目にすることによって英語の単語が出てくるような環境作りを目指し、英語部会（中学校英語教員、小学校英語担当、JTE、ALT）を中心に校内英語表示物の充実に努めている。各教室には英語コーナーを設け、既習単語や表現などを掲示し、英語を口にすることが特別なことにならないような環境づくりがなされている。日頃の学校生活においてコミュニケーションのきっかけになるような環境づくりを大切にしたいと考えている。

（2）English Day

毎週木曜日は「English Day」と位置づけ、登校のあいさつ“Good morning.”から授業の始まりと終わりのあいさつ“Let's start (finish) English class.”、ランチタイムの始まりと終わりのあいさつなど、下校までのあいさつを英



中学校美術教員協力による壁面表示。左は森の生き物、右は海の生き物が英語で表示されている

語で行う取り組みを実践している。朝の放送、お昼の放送も英語で行われており、8、9年生（中学2、3年生）の報道委員を中心に英語によるリクエスト曲の紹介や絵本の読み聞かせなど、小中一貫校ならではの取り組みを実践している。

3 指導の充実（英語活動と部分的イマージョン教育を通して）

（1）英語活動

本校は英語教育の目標：前期（1年生～4年生）【英語に慣れ親しむ】、中期（5年生～7年生）【英語を身につける】、後期（8、9年生）【英語を活用する】を掲げている。これらの達成に向けて、1年生～4年生は英語活動と部分的イマージョン教育を併せて年間30時間の英語学習を実施している。英語活動については、1年生から4年生は歌やゲームを中心とした授業、5、6年生は歌やゲーム、言語活動に加え、中学校英語学習へのなめらかな接続をねらいとして文字指導が導入されている。文字指導については、生徒の負担にならないよう、1、2年生で基本的なフォニックスの学習を、3、4年生で国語科と連携したローマ字の指導、5、6年生でアルファベットと音を関連づけた指導を位置づけ、大文字と小文字が書けることを目標としている。



学級担任、JTE、ALTの3名による2年生の英語活動

（2）部分的イマージョン教育

英語活動を補いながら、英語の機会を多く持たせたいという考えから、英語活動の他に体育・音楽・図画工作・生活などの技能教科で部分的イマージョン教育を実施している。英語活動と並行して進行することに不安はあったが、1年次は簡単な英語での指示、それぞれの教科で使う単語やフレーズの指導程度とし、児童の負担にならないよう考慮した。そして何より各教科のねらいから逸脱しないよう努めた。

実践を通して、当初計画していた教科ではうまくいかないこと、国語や算数で実践可能な単元があること、担当教員との話し合いの時間が十分にとれないことなどさまざまな課題が挙がった。今後はそれらの課題を十分検討しながら、2年次へとつなげていきたい。

4 今後の取り組みとして

国際的なコミュニケーション・ツールとしての英語の重要性が高まり、本校の英語教育についても生徒や保護者からの理解と期待が高いことが、実施したアンケートからわかった。「実際に外国の人と交流したい」「外国へ行きたい」などの生徒からの要望も多く、今後は市内の大学に在籍する外国人留学生や県内のアメリカン・スクールとの交流などを検討している。また、ICTを活用した授業の研究や沖縄高専との連携も引き続き実施したいと考えている。

暗中模索の中で始まった本校の取り組みは、1年次を終えようとしている。本年度は英語教育に向けた環境作りや保護者、職員の理解、子どもたちの興味関心の向上など収穫の多い1年だったといえる。今後は指導案の修正を加えながら、より充実した指導法や指導体制の構築に向けて取り組んでいきたい。

I-am-counting-on-you.



写真：amana

“Rocket Boys”は平成18～23年度版ONE WORLD English Course 3のリーディング教材で取り上げた作品です。原作はHomer H. Hickam, Jr. 著で、1998年に*Rocket Boys*として出版されましたが、1999年に*October Sky*という題名で映画化されており、手元にあるDell Bookのペーパーバック*October Sky*は映画化に合わせて発行されたものです。

教科書のリーディングに載せるにはかなり長い作品であるため、ほんのさわりのみを含めることしかできませんでしたが、映画にも登場していないものの、今考えると捨てがたい場面が本の中にたくさんあります。

まだこの作品や映画をご存じない方のために簡単な説明をさせていただきます。

1957年10月のある晩、ソビエトの人工衛星スプートニクが、アメリカの空の上を飛びました。ソビエトがアメリカの軍事情報を得ようとしているのだろうか、上空から軍事施設の写真を撮るのだろうか、そういう噂がされた時代のことです。

その晩、ウェストバージニア州の人口2,000人ほどの炭鉱町コールウッドの空の端から端まで人工衛星が飛んで行くのに見入っていた14歳の少年がいました。

少年の人生はその晩を境に変わりました。何日か経った晩、少年は家族に宣言します。「僕はロケットを作るんだ。」

●津田塾大学大学院 野田 小枝子

作り方もわからないまま、3人の友達を巻き込んで作った、癪癪玉の火薬をプラスチックの筒に詰めて作った第1号のロケットは、地元で見た人の証言によると、「神様ご自身の拍手が聞こえたと思ったら、美しいアーチを描いて空を飛んで行った。」とのこと。しかし、問題がありました。飛んで行ったのは実はロケットではなく、それを置いていた、母親のバラの花壇の柵だったのです。

こうしてホーマーのロケット作り人生が始まりました。後に、NASAのエンジニアになったホーマーは、多くのロケット製作や宇宙飛行士のトレーニングに関わり、そして、この自伝的作品を著しました。

手短かに言うなら、この本はアメリカのためにロケットを作ろうという夢を持った少年が夢の実現のために級友たちとロケット作りに次々に挑戦して科学フェアで授賞するまでの青春の日々の、少し脚色も入った自伝です。

今回ご紹介したいのは、ホーマーとその母親とのやりとりであり、母親の言った、“I-am-counting-on-you.”という言葉です。日本語にすると、ご存じのように「頼りにしてるわよ。」とか、「頼んだわよ。」という表現です。原著中、単語をハイフンでつないでいる理由は、この一言を言った時、あまりに強調したかったため、一語一語に力を込め、しかもホーマーの鼻の頭に一語一語指をあてながら母親が言っている雰囲気を読んだからだと思います。

一般的に、子供が夢を持ったとき、それを応援してくれる誰かが必要で、親や教師の役割がまさにそれではないかと思うのですが、ホーマーの場合、それが母親や科学教師のライリー先生でした。

ホーマーの父親は、坑夫たちの監督役であ

り、炭鉱と結婚したと母親がからかうほどの仕事人間です。優れたリーダーで坑夫や坑夫の家族の面倒見がよいけれども、自分の家族はほとんど顧みる暇がありません。

この炭鉱町では、男は大人になると坑夫になり家族を養うのがよしとされ、ホームーがもし坑夫になりたくなければ、炭鉱関係の事務員として働くくらいの可能性しか、ホームーの父親は考えていなかったようです。

ホームーにはジムという兄がいますが、ジムはフットボールの選手として優秀で、大学からスカウトされ奨学金が下りる可能性大でした。

ホームーはよく本を読む子供でしたが、これといって特にやりたいことはなく、子分を引き連れて遊んでいる中学生だったようです。

1957年の10月の晩の後、「ロケットを作る」と宣言した息子に、母が返した言葉は、“Well, don’t blow yourself up.”「まあ、自分を吹き飛ばさないようにね。」でした。

次にホームーが母親のバラの花壇の柵を吹き飛ばしたときに、この母親は叱ったりしませんでした。

父親は、“Just take care of this one before he embarrasses me all over Coalwood.”「こいつがコールウッド中に俺の恥をさらすようなことをしないように見張っていてくれよな。」と言ってまた仕事に戻ってしまいますが、母親はこの機会にホームーに話しておきたいことがあったのです。

並んで座ってホームーの肩に手を回し、母親は話し始めます。それはホームーが聞くだろうと思っていた説教とは全く違うことでした。「サニー（ホームーのあだ名）、君はここを出ていかなければだめよ。ジミー（ホームーの兄）は出て行くわ。フットボールがあるから、出て行って大学へも行けるでしょう。君は、おとうさんの気持ちを変えるようにしなければならぬわ。どうにかしてね。君たちの大学資金を貯めてはいるけれど、そ

れだけでは十分ではないわ。おとうさんは君が将来もこの町で働くと思っているのよ。そんなおとうさんにも納得してもらえる理由が要るでしょう。」

「この炭鉱町は、あとしばらくは続くかもしれないけれども、長くはないわ。仕事がなくなり、町もばらばらになってしまうでしょう。」

その後の母親の言葉は、次のようなものでした。“You need to do everything you can to get out of here, starting right now. To get out of here, you’ve got to show your dad you’re smarter than he thinks. I believe you can build a rocket. He doesn’t. I want you to show him I’m right and he’s wrong.”「今これからは、ここを出るために何でもできることをしなければならぬの。ここから出るためには、おとうさんが思っているより君の頭がいいってことを見せなければね。君はきっとロケットを作れると思う。おとうさんはそう思っていないけどね。おかあさんが正しくておとうさんは間違っているっていうことを、君に見せてもらいたいよ。」

しばらくして、家に入っていくと、母親が待ち構えていて、「さっき言ったこと、わかった？」とホームーに聞きました。口ごもるホームーに母親が言ったのが、上に挙げた“I-am-counting-on-you.”です。

息子が何かやりたいことを見つけたと思った母親は、最初の失敗を叱る代わりに、やりたいことを思い切りやるよう励ましたのです。そして、I am counting on you.と念を押すことによって、「あなたは私の息子、必ずやってよ。信じているわ。」と信頼を表現し、「やってくれるわよね。この後へはもう引けないのよ。」という、いい意味のプレッシャーをかけているのです。

簡単に言ってしまうえば「喝を入れる」(stir, shake upなど) 母親のこの一言、就職前に思い切り遊び回っているわが息子にも目力強く言ってみたいものです。

It's a generational thing

Peter J. Collins
Tokai University

Cool - an electric typewriter! My parents gave me one as a high school graduation present in 1984. But when I went off to college that September, I realized that my typewriter was nothing special; all my freshman classmates had received the same one from their parents! And the next three Septembers, I envied the new freshmen their updated typewriters, which were evolving into what we called “word processors.”

By the time I graduated from college, I was storing papers I'd written on floppy disks. Already, articles were appearing in newspapers and magazines about the widening generation gap between those who couldn't keep up with new technologies and those who could. I proudly counted myself in the latter group.

Twenty-five years later, however, I worry that I may be slipping into the former group. I'm considered a member of **Generation X**. This term was coined in the early 50s, but didn't become mainstream until Douglas Coupland's 1991 novel *Generation X: Tales for an Accelerated Culture* became a bestseller. **Gen X-ers** like me became adults in the late 80s and early 90s. We grew up in a world without cable TV, computers or even push-

button phones, but now we look back and wonder how we managed without them.

I wouldn't call myself a **technophobe**, someone with a phobia or fear of technology. But I'll admit to being a little **technostressed** at times. People experience **technostress** when they feel overwhelmed by information technology, especially when trying to maintain a certain level of **hyperconnectivity**, where the prefix “hyper-” means “excessively.” If someone is **hyperconnected**, they're juggling several different modes of online communication at once. Even with my five different email addresses, Facebook account, phone, and subscriptions to various podcasts and online periodicals, I'm still not as hyperconnected as most members of **Generation Y**.

Gen Y-ers came of age just a few years ago, and are also called **Millennials**. They're thought to be far more **technoliterate**, with higher technical knowledge or literacy than Gen X-ers. Having grown up with laptop computers, mobile phones, and the Internet, Gen Y-ers view continual advances in communication as part of everyday life. They're the first to line up for the latest electronic accessories and gadgets, called **techcessories**.

Now and again I'll buy myself a **techcessory** – I just got an e-book reader last month and love it – but I'm not usually an **early adopter**, someone who embraces new technology before other people. I tend to wait until the second or third version comes out, and ask friends and colleagues for recommendations. I hope that doesn't make me a **laggard**, someone who lags behind. In today's **techspeak**,

or technological language, laggards are the last people to try or adopt a new product. Don't have an email address in 2013? Still using a **dumb phone** – the opposite of a smart phone – that doesn't have a camera or even an Internet browser? **Techsperts** (technology experts) would probably call you a laggard.

There are, I'll admit, a couple ways in which I'm lagging a little. For one thing, I still don't have a portable **Wi-Fi** device for my tablet computer. Wi-Fi, meaning "wireless fidelity" is a play on the term hi-fi, or "high fidelity," introduced in the 1950s to describe that era's new stereo systems. But these days, I feel less pressure to get a Wi-Fi device, since there are more and more **hotspots**, like coffee shops and hotels, with free wireless access and fewer **dead zones** that have none.

I'm also not one of the 500 million registered **Twitterers**, people who **tweet** messages on the social messaging tool Twitter. There seem to be a lot of Gen Y-ers who are **tweetaholics**, addicted to sending tweets and following other Twitterers. Perhaps they're hoping to become members of the **Twitterati**. This term has emerged from "literati," referring to educated, or literate people. Twitterati are the Twitters with the most followers; the pop singer Justin Bieber currently ranks at number one, with over 33 million!

These days we often hear about commentators or politicians getting into trouble for a tweet they've sent out into the **Twitterverse**, a new word combining Twitter and "universe." Some simply haven't followed the rules of **Twettiquette**, or Twitter etiquette, while

others have **Twitsulted** (Twitter insulted) someone. Celebrities who twitsult other celebrities may get called **TrashTweeters**. Some are pressured to commit **Twittercide** (a combination of Twitter and suicide) by deleting their accounts completely.

Although I don't have a Twitter account, I have to confess to spending an inordinate amount of time on the Internet. **YouTubing** is my real downfall; one video leads me to another and another, and suddenly I realize that two or three hours have passed!

If there's a gap likely to be even wider than the one between Generations X and Y, it's the one between Generation Y and **Generation Z**. We can't predict exactly what the world will be like when **Gen Z-ers** come of age in a few years or who they will be as adults. But we do know about the world they are growing up in now: one where 100-yen shops and gas-powered vehicles may soon be replaced by home 3D printers and electric cars.

And my old typewriter from college? Gen Z-ers may only ever see one like it in a museum, displayed between a gramophone and a Franklin stove. And as they watch Gen X-ers pointing and saying, "I remember those!" the Gen Z-ers will probably shrug and think, "It's a generational thing."



英語授業 改善への提言

「使える英語」力を育成する授業実践

〔編著〕樋口忠彦(代表)・並松善秋・泉恵美子

A5判・292頁 定価：2,940円(本体2,800円+税)

「使える英語」を
いかにして教授するかについて、
様々な観点からの
研究成果をまとめた実践集。



英語教育 通信 ONE WORLD Info (2013年春号) 2013年3月29日 発行

編集：教育出版株式会社編集局
印刷：大日本印刷株式会社

発行：教育出版株式会社
発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- 北海道支社** 〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
- 函館営業所** 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一生命ビルディング 3F
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
- 東北支社** 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
- 中部支社** 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
- 関西支社** 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
- 中国支社** 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
- 四国支社** 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
- 九州支社** 〒812-0007 福岡市博多区2-11-30 クレセント東福岡E室
TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
- 沖縄営業所** 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411